

平成26年度

公益財団法人丹後地域地場産業振興センター事業計画

はじめに

平成25年度は、アベノミクスによるデフレ克服政策が断行され株価も一定水準で堅調に推移しています。しかしながら先頃発表となったGDPの伸び率は2013年10～12月期の国内総生産（GDP、季節調整済み）改定値は、物価変動の影響を除いた実質が前期比0.2%増、年率換算で0.7%増となり、速報値（前期比0.3%増、年率1.0%増）から下方修正されました。

これは、5期連続でプラス成長ではありますが、消費税増税前の駆け込み需要等を勘案すると鈍化傾向にあることが見て取れます。このことに加え増税による仕入材料、社会インフラ費用の高騰、販売の伸び悩みは想像に難しく、丹後経済を支える第一次産業から第三次産業者の経営環境は一層厳しいものが予想されます。

このような状況の中、当センターの平成26年度の事業方針は、一次産業から三次産業者と協力した六次産業化事業を推進し、丹後地域産業の安定的な発展に寄与する所存です。

このため、京都府をはじめとする自治体及び業界団体等の関係機関との密なる連携により、事業を推進してまいります。

I 新商品・新技術開発事業（公益目的事業1）

1 地域ものづくり支援事業

生産者及び製造者からの要望を受け、関係機関・団体の協力の下、商品開発、販路開拓の支援事業を実施する。

2 新商品（複数商品ワンパッケージ化等）開発事業（新規）

丹後・食の王国ビジネス連携推進会議（事務局当団）において、消費者の購買心理に訴えるコラボ商品の開発を行い、互いに不足する部分を補完しあうとともに、消費者の要求に応えるワンパッケージ商品化（マッチング）開発を行う。

II 人材育成事業（公益目的事業1）

1 ICTリテラシー養成事業

平成22年度ICT人材育成活用による丹後産品集積活性化事業で整備した情報端末を使用し、丹後産品製造者に対するICTリテラシーの増進を図り、生産、流通、受発注の効率化を図る研修を実施する。

2 地域人づくり事業（新規）

六次産業化事業の中心を担う人材育成を目的としてセンター内においてOJT（企業内の教育訓練）とOFFJT（企業外研修）を実施し、企業に必要な幹部職員の育成を図る。

III 需要開拓事業（公益目的事業1）

1 丹後ブランド商品認定事業

(1) Tango Good Goods 認定事業

事業開始以来16年目を迎えるTango Good Goods認定事業を今年度も実施し、製造者の「ものづくり」を奨励・支援し、販路開拓の意欲高揚を図るとともに、丹後ブランド商品のコンセプト確立とそれに基づくブランドイメージの定着化を図り、流通及び需要の拡大・開拓を推進するとともに特定保健食品の普及により、商品表示及び陳列についても一層の厳格化が指導されており審査基準においても認定品としてのコンプライアンスはもとより、着色料、保存料等

についても再度製造者の意識を高め、T a n g o G o o d G o o d s としての質的向上を図る。

また、認定品へのT a n g o G o o d G o o d s ロゴシール貼付指導を推進し、地域ブランド商品として差別化を図る。

○T a n g o G o o d G o o d s 認定推進協議会開催

○T a n g o G o o d G o o d s 認定募集

○T a n g o G o o d G o o d s 審査会の開催

○平成26年度認定品のT a n g o G o o d G o o d s 認定品カタログの作成（BtoB）とバイヤーへの配布

（2）丹後ブランド商品の販売促進と見本市の開催

第16回目となる丹後ブランド産品見本市を開催し、丹後ブランド認定産品を中心とした地場産品の地域内PR及び流通促進を図る。

また、T a n g o G o o d G o o d s の商品流通を促進するためのPR展示を実施する。

2 商談会出展事業

地域外販路の開拓を目指し、東京インターナショナルギフト・ショーなど各種商談会へT a n g o G o o d G o o d s 認定事業者を派遣し、製造者の商品提案力の強化及び新販路の開拓に資する。

3 京都丹後ブランド産品会の支援

T a n g o G o o d G o o d s 認定事業者のなかから地域外へも、その販路を開拓する意欲のある事業者で発足した「京都丹後ブランド産品会」の活動を支援し、新商品開発、販路開拓等の事業を実施する。

4 地域特産品販路開拓事業

（1）地場産品製造者の現状を把握し、販路開拓と地産都消をコンセプトに都市部等における販路を確保し、T a n g o G o o d G o o d s 認定事業者へ販路を紹介するとともに、売れる商品の開発指導を行う。

（2）丹後のええもん うまいもん展開催事業

京都丹後ブランド産品会を支援し、京都、大阪、名古屋等の大都市圏において丹後産品及び地域紹介を目的として、「丹後のええもん うまいもん展」を開催する。

また、各地域及び関係機関と連携し「ええもん うまいもん展」を冠した各種展示会を開催する。

(3) 京都「丹後・食の王国」ビジネス連携推進会議との連携

丹後地域の食品に関する事業者が連携して、流通の仕組みづくり、販路の拡大等に取り組む京都「丹後・食の王国」ビジネス連携推進会議と連携した各種事業に取り組む。

5 展示ギャラリー活用事業

地域でものづくりに励む、企業、団体、個人等の作品発表の場として、1階展示ギャラリーを提供するとともに、センター及びセンター出展者会による情報発信の場として活用し、地域誘客の一助に資する。

6 染色体験・手織体験及び資料展示事業

観光客等が地域資源である丹後ちりめん及び織物に対する理解を深め、地域産業に触れてもらう機会を創出するため、網野染織研究会「茜」の協力を得て体験、展示事業を実施し、情報発信及び誘客の強化を図る。

7 C A T Vによる地場産品紹介事業

センターに設置されたC A T Vスタジオと連携し、地域内外へ地域資源（観光・産品・産業）を紹介する。

IV 情報収集・提供事業（公益目的事業1）

1 展示即売室即売動向情報収集分析提供事業

展示即売室における日々の顧客、商品、販売情報の収集に取り組み、販売データを分析、加工、提供し、アミティ情報の発行により各種情報をタイムリーに提供し、業者の経営に寄与するとともに、業者との意思疎通の一助に資する。

2 ホームページによる地域資源発信事業

当センターオフィシャルホームページにおいて地域情報、センター情報、産品情報、地域企業情報等をホームページにより発信するとともにSNS

ツールを活用しセンターホームページへの誘導を図るとともにタイムリーな情報提供を行う。

また、京丹後市等の自治体と連携し、地域資源情報等を積極的に交換し地域の魅力をPRする。

3 アミティ丹後出展者会

アミティ丹後出展者会を随時開催し、即売室情報を基に商品展示方法、企画展開催などの情報交換、研修、事業を行う。

4 物産展等の販売機会情報収集提供事業

各地域地場産センターや地域内外のイベントなど地域PRに有効な物産展情報を収集し、出展意欲のある企業へ情報提供を実施し地域PRの機会を提供する。

V 地場産品展示普及支援事業（公益目的事業1）

1 地場産品常設展示

当センターの重要な機能及び事業の柱の一つである地場産品のPRを目指す常設展示即売事業は、地域産品の総合展示場として「丹後ちりめん」をはじめ地場産品約1700品目に及ぶ製品を展示している。

来館者の注目も高く、観光関連業者からの紹介も年々増加しており、地域の観光資源としての機能を持ちつつあり、今後も年間を通して丹後を訪れる観光客をはじめ地域内外へも取扱品情報を発信するなど幅広く宣伝・啓発し、販路開拓とともに消費者ニーズの把握による需要拡大に努める。

2 丹後産品情報発信事業

コンシューマー向けカタログ（中元・歳暮・通年の3種）の作成配布、ショッピングモールの運営を行い、丹後産品を全国に向け広く周知する。

（1）エンドユーザーへの丹後産品のPR、新たな丹後ファン獲得を目指し、近畿地場産センターとの連携によるショッピングモールをポータルサイトとして、ECサイト運営を引き続き実施する。

（2）上記ショッピングモールと連動し、歳暮及び中元期の通信販売カタログの作成と配布、両期間以外の通年カタログの配布を行う。

Ⅵ 丹後ブランドチャレンジショップ運営事業（公益目的事業1）

1 丹後ブランドチャレンジショップ運営事業

大都市圏での丹後情報の発信、地場産品PRを推進することを目的とし、京都市内に開設したホッと丹後について、将来的な民間への移行を視野にホッと丹後出展者に引き続き運営業務を委託する。

2 販路開拓・PR事業

ホッと丹後を拠点として、宮津市、京丹後市、与謝野町との連携により、各市町の特産、地域PRを目的としてチャレンジショップを情報発信の拠点として、活用・展開する。

Ⅶ 丹後産品集積活性化事業（公益目的事業1）

1 ICT人材育成・活用による丹後産品集積活性化事業

丹後産品集積活性化事業の中核を担うR e . 丹後有限責任事業組合を発展的に解散し、新たに農業法人（株式会社）を設立し六次産業化事業の中心を担う組織とするとともに、平成22年度に構築した丹後産品集積活性化システムを活用し、丹後産品の集積と販路開拓を引き続き実施していく。

また、集客施設に設置しているデジタルサイネージ及びインターネット上に掲載している丹後放送局（動画サイト）を活用し、丹後情報の発信と上記システムのポータルとなるECサイトへの誘客を図る。

また、日本最大の農産物直売チェーンの株式会社タカヨシが運営する「わくわく広場」との提携により、農産物を中心とした特産品の新たな販路を求め首都圏での市場開拓トライアル事業に取り組む。

Ⅷ 会館提供・コミュニティー事業（収益事業1）

1 会場提供事業

センター2階施設を地域住民、企業、団体等の会議、研修会、展示会等に貸し出し、地域コミュニティーの場として地域活性化の一助に資する。

Ⅸ 誘客販売事業（収益事業2）

1 販売事業

来館者等の利便に資するため、土産品としてのキーホルダー等の販売を行う。

2 たんご朝市の開催

たんご朝市は、開設12年を迎え、地域住民・観光客等から好評を得ている。朝市会館建設による毎日開催の要望があるものの、今年度は、引き続き前年同様の開催方法とし、生産者が自身の産物を直接、エンドユーザーに販売する方式で運営することとし、朝市の会場を提供する。

X 管理事業

1 理事会・評議員会の開催

センターの適正・円滑な運営を図るため、理事会・評議員会を開催する。

(1) 定時理事会

開催予定	主な審議内容
平成26年5月	平成25年度事業報告・決算報告ほか
平成27年3月	平成27年度事業計画案・予算ほか

(2) 定時評議員会

開催予定	主な審議内容
平成26年6月	平成25年度事業報告・決算報告 理事の選任 監事の選任ほか